

2012-13 年度 米山梅吉記念館探訪旅行

9月30日～10月1日にかけて、奨学生15名とその家族、カウンセラー10名と委員4名を含め総勢31名で米山梅吉記念館を訪ねながら日本を代表する富士山周辺の自然と文化に触れる『米山梅吉記念館探訪旅行』が実施されました。

当日は台風17号が日本列島を縦断すると言う予報に、旅行自体の実施が危ぶまれる中、進行速度が遅かった事もあり第一日目は雨風に見舞われる事もなく二日目も前日の夜半には静岡、山梨を通り抜け、台風一過で澄み渡った青空の下、一言で言えば好天に恵まれた素晴らしい旅行でありました。ロータリアンと奨学生の日頃の行いの賜物である。

初日に訪問した米山梅吉記念館では学芸員のとてもわかりやすい説明に奨学生も熱心に展示物を見ながら聞き入っておりました。その後、記念館近くにある米山梅吉翁の墓をお参りし、皆で手を合わせ、今日（こんにち）の米山奨学金事業の恩恵にあずかるものとしてその功績を称え感謝の気持ちでその場を後にしました。

宿泊地である修善寺に向かう途中、ロータリアンである東京ラスク社長のご厚意で伊豆工場の見学とラスクの手作り体験し奨学生がカウンセラーに自分達が焼いたラスクを上げるなど微笑ましい光景に一堂笑顔で宿泊先である『ホテル桂川』に向かう。

奨学生にとっては宿に着いても研修が待ち構えており、夕飯までの1時間半、奨学生として残り半年間どのように奨学期間を過ごすか、又、奨学期間が終了したあとに学友としてどのような働きが出来るかなどディスカッションし、発表し合いました。

今回の探訪旅行の目的は一に米山梅吉記念館を訪問し米山記念奨学事業の根底ともなった梅吉翁の生い立ちや業績を学ぶこと、そして一連の研修を通じて米山奨学生に選ばれたことへの誇りと自覚を更に持ってもらい、今後の奨学生生活をより有意義なものにしてもらう事、二つにはこの旅行を通じて奨学生とカウンセラー、奨学生同志の懇親を深めてもらう事であると考えます。

懇親を深めると言う意味では夜の宴会は非常に盛り上りました。

敢えて奨学生二人にカラオケ大会を仕切ってもらい全員もれなくカラオケに参加し日頃鍛えた(?)喉を競い合い、あっという間に時間が過ぎ予定の時間を30分以上もオーバーするほどでありました。

翌日は富士山を車窓から眺めながら河口湖に向かう。忍の八海と久保田一竹美術館に立ち寄り、昼食後、千葉への帰路に着く。途中、富士山を背景に全員で記念写真を撮り、帰りのバス内では米山奨奨学事業に関するクイズや奨学生の卓話原稿を朗読し、感想を述べ合うなど本当に濃厚で盛りだくさんな研修と懇親の二日間でありました。

最後に今回、参加した奨学生の中より頂いたメール文の中から一つだけ紹介します。

『2日間にわたり探訪旅行お疲れ様でした。〇〇ロータリークラブに所属している米山奨学生の〇〇と申します。今回の探訪旅行に参加させていただき、誠にありがとうございました。皆様の御蔭で、大変有意義で楽しい2日間を過ごさせていただきました。

旅行を通じて、ロータリー米山記念奨学事業に対する理解を深める事が出来ただけでなく、

カウンセラーとの絆も深めました。そして、2日間の付き合いの間に、私達、奨学生はお互いの事を知り、友情も深めるようになりました。

このような有益な交流機会を設けて頂きまして、誠にありがとうございました。

ぜひ、この感謝の気持ちを委員会の皆様にお伝え下さいませ。

これからも先生の世話になるとは思いますが、どうぞ宜しくお願いします。』

文責 奨学生・学友担当 織田信幸

